様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ９ 月 １５ 日現在

機関番号：２２６０４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｋ０３５４９

研究課題名（和文）日本における保守主義の起源――福地源一郎を中心に――

研究課題名（英文）The Origins of Conservatism in Japan, with a focus on Fukuchi Genichiro

研究代表者
河野　有理（Kono, Yuri）

首都大学東京・法学政治学研究科・教授

研究者番号：５０５２６４６５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究では、明治期の著名なジャーナリスト・福地源一郎の思想を、特に保守主義という観点を重視しつつ、分析・考察したい。その際第一に、E・バーク等の西洋由来の概念を当てはめるのではなく、あくまで明治期の歴史的コンテクストに立ち戻って「保守」概念を問い直す。
　そして第二に、単なる語彙研究としてではなく、政党や知識人共同体や地方団体といった「保守」を支えるネットワークの実態と相互作用についても視野に入れて分析を進める。
　さらに第三に、歴史的対象としての明治期の「保守」思想が、翻って同時代の規範的な政治理論（熟議民主主義論等）として持ちうる意味について考察を深める。

研究成果の学術的意義や社会的意義
従来、日本政治研究における「保守」概念は、戦後においては特定の政党支持の問題として、戦前においては漠然とした「支配層」「体制」寄りないし特定の思想家の継受の問題として片づけられてきた。本研究がなしうる最大の貢献は、「保守」概念を、政治的熟議を支えるエトスに関わるという意味で規範的な議論の場においても、また操作化可能性が求められる実証の場においても、通用するようなものとして研ぎ直すことである。

研究成果の概要（英文）：In this study, I will examine the thought of the famous Meiji-era journalist Fukuchi Genichiro, particularly from the perspective of conservatism. I would like to analyze this issue with emphasis on the following. First of all, I would like to focus on the history of the Meiji period, not on the concepts of E. Burke and others of Western origin. Returning to the target context, I reexamine the concept of "conservatism".
And secondly, not just as a lexical study, but as a "conservative" study of political parties, intellectual communities, and local organizations. I will also analyze the actual conditions and interactions of the networks that support the "conservative" ideology of the Meiji era.
Thirdly, the "conservative" ideology of the Meiji period as a historical subject will be turned into the normative political theory of the same period. Consider the possible implications of this as a deliberative democracy.

研究分野：日本政治思想史

キーワード：保守主義　演劇的熟議　史論　演劇改良　自由民権運動

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

以下、本研究の学術的背景として、(a)「保守」概念再考の必要性と学界の動向、(b)申請者の研究成果を踏まえた着想の経緯、(c)期待される発展的内容の順で述べていきたい。

（a）「保守」の溶解？――政治学・政治思想史における「保守」概念再考の必要性

最新の実証研究が指摘する所によれば、近年の有権者においては「世代によって異なる保革イデオロギー尺度」が存在し、さらに、「若年層と高齢層では日本の政党の立ち位置や政党政治そのもののとらえ方に大きな溝」がある（遠藤晶久・ウィリー・ジョウ「若者にとっての「保守」と「革新」：世代で異なる政党間対立」『アステイオン』vol.80,2014、三輪洋文「現代日本における争点態度のイデオロギー的一貫性と政治的洗練：Converse の呪縛を超えて」『年報政治学』2014(1)）。

つまるところ、「保守とは何か」「革新とは何か」ということについて、それまで漠然とではあれ共有されていた予期が機能しなくなっているのである（例えば、先の論文では多くの若者が共産党を「保守」、維新の会を「革新」と認知しているという興味深い例が紹介されている）。そのことは、直接的には、アンケート等によりイデオロギー的自己認知と政党支持を結び付けて有権者の行動を理解してきた、伝統的な政治行動論の手法の妥当性に関わる問題を提起する。だが、これは我々の政治的意味空間そのものの変容を示唆する点で、より広い意味では、政治システム全体に関わると問いを惹起していると言えるだろう。

こうした動きと軌を一にして、西洋政治思想史の分野でも、近年、Ｅ・バークや、彼の名を冠することの多い「保守主義」「保守思想」に関する見直しの動きが顕著である（宇野重規『保守主義とは何か』、中公新書、２０１６年）。他方で、日本政治思想史の分野では右翼研究・ファシズム研究の活況に比して、丸山眞男の「反動の概念」（１９５７年）以来、本格的な「保守」主義研究はほぼ皆無であるのが残念ながら現状である。

（b）「保守」の思想的淵源としての福地源一郎

江戸時代への「復古」を本気で主張する論者がほぼ不在であった明治期において、「保守」の思想的淵源となったのは、急進的な自由民権運動に異を唱え「漸進主義」を掲げた福地源一郎であった。福地については、近年、研究の蓄積が進みつつあるが（丹羽みさと「福地桜痴を中心とした幕末明治の文芸に関する総合的研究」（日本文学）２０１２～２０１５年、若手 B、五百旗頭薫「福地源一郎研究序説――東京日日新聞の社説より」２０１３年）、「保守」主義の観点からの研究は、坂本多加雄（「福地桜痴と明治維新」１９８４年）以来、依然として手薄である。

申請者は、自身で研究代表をつとめた「政党化する政治文化――自由民権運動期を中心に」（２０１３～２０１７、若手Ｂ）において福地源一郎関係資料の収集・分析に努めた。また、「近代日本における社会的包摂と再分配の政治思想」（２０１１～２０１３年、若手Ｂ）においては、明治から大正にかけて、福地も注目した地方の中間団体の再構築を目的とした報徳運動関係の資料を収集し、分析した。研究を進める中で、上記（a）におけるような事情に鑑み、これらの成果を生かし発展させることで、福地源一郎の政治思想を「保守」主義さらには、熟議を支えるエトスという観点から再構成することが可能となるのではないかと思うに至った。

（c）「保守」の政治哲学へ向けて――演劇的熟議のエトスとしての「保守」思想――

従来、日本政治研究における「保守」概念は、戦後においては特定の政党支持の問題として、戦前においては漠然とした「支配層」「体制」寄りないし特定の思想家の継受の問題として片づけられてきた。本研究がなしうる最大の貢献は、「保守」概念を、政治的熟議を支えるエトスに関わるという意味で規範的な議論の場においても、また操作化可能性が求められる実証の場においても、通用するようなものとして研ぎ直すことである。

２．研究の目的

本研究は、「日本における保守主義の起源――福地源一郎を中心に――」をテーマとする。具体的には、明治期の著名なジャーナリスト・福地源一郎の思想を、特に保守主義という観点を重視しつつ、分析・考察したい。その際第一に、Ｅ・バーク等の西洋由来の概念を当てはめるのではなく、あくまで明治期の歴史的コンテクストに立ち戻って「保守」概念を問い直す。そして第二に、単なる語彙研究としてではなく、政党や知識人共同体や地方団体といった「保守」を支えるネットワークの実態と相互作用についても視野に入れて分析を進める。さらに第三に、歴史的対象としての明治期の「保守」思想が、翻って同時代の規範的な政治理論（熟議民主主義論等）として持ちうる意味について考察を深める。

３．研究の方法

（a）「保守」主義の政治思想史的意味

「保守」主義が明治前半期当時に持っていた意味を、①代表的な論者の意図や狙い、②読者の反応と解釈、③対抗する陣営の言論動向、④バークやメーストルの受容史また梁啓超を通した中国大陸への影響といった複数の視点から明らかにする。

（b）「保守」主義の政治学的意味

「保守」主義を、「政党化する政治文化――自由民権運動期を中心に」以来の課題である「政党化」との関連で把握し、①自由党や改進党、立憲帝政党といったそれぞれのアクターの動向にとって「保守」主義がどのような意味を持ったのか、②また、そのことは政党政治の進展にどのようなインパクトを与えたのか、を（a）の成果を取り入れつつ明らかにする。

（c）「保守」主義の政治哲学的意味

政党や政治家はいかなる意味で「民意」を「代表」する存在なのか。完全なる命令委任から、人々の「拍手と喝采」を体現する独裁者まで、様々な代表理論が存在するが、本研究は、「保守」主義をめぐる言論アリーナを通した演劇的熟議という観点から、明治前半期の体験が、どのような政治哲学的意味を有するのかを明らかにする。

４．研究成果

福地源一郎（桜痴）の保守主義の政治思想史的意義及び政治理論的意義について一定程度において明らかになったと考えている。主な成果としては以下である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 河野有理
２．発表標題 政治思想史研究はまだ存在しているか？
３．学会等名 日本政治学会
４．発表年 2017年

〔図書〕　計2件

１．著者名 御厨 貴	４．発行年 2018年
２．出版社 千倉書房	５．総ページ数 360
３．書名 天皇の近代	

１．著者名 谷口功一	４．発行年 2017年
２．出版社 白水社	５．総ページ数 220
３．書名 日本の夜の公共圏　スナック研究序説	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考